

幡多地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

(平成27年度 第3四半期)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

< 幡多地域 >

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>持続性のある水田農業を確立するため、水稲と露地野菜を基幹とした大規模経営体、またはそれを志向する農業者を対象に、規模拡大による生産性の向上と安全・安心・高品質生産を推進し、所得向上と雇用創出を図る。</p> <p>【JA高知はた】</p>	<p>○大規模志向農家のネットワーク化に向けた「交流会」を開催し、志向農家はもとより関係機関への意識付けにつながった。</p> <p>○指標達成経営体数、H26:5経営体</p> <p>○ネットワーク参加者8戸(H24)→18戸(H26)</p> <p>○省力・低コスト技術導入農家1戸(H24)→6戸(H26)</p> <p>○露地有望品目検討1品目(H26)</p> <p>○H24産振アドバイザー制度活用(1回)</p> <p>◆既存大規模農家と大規模志向農家のネットワーク拡大による情報共有、相互研鑽。省力、低コスト技術の普及。農地及び労働力幹旋システムの整備。幡多地区での露地有望品目現地適応性の検討。</p>	<p>・補助事業勉強会の実施(1回)</p> <p>・研修会の実施(3回)</p> <p>・ファイナル技術説明会の実施(1回)</p>
<p>2 洋ランのブランド確立・流通促進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市内の生産者をはじめ、県内の洋ラン生産者が新たな組織を立ち上げ、各生産者が生産した洋ラン商品を一元的に集荷、パッケージ化し、市場を通じたこれまでの流通に加えて、直接小売店や消費者に販売する。</p> <p>【石田蘭園、蘭遊 六志会】</p>	<p>○集出荷施設の整備(H25)により、多彩な洋ランを集積し、通年で販売が可能となったことで、大手百貨店等への販路が拡大。</p> <p>○県外出展等販促活動(H25)</p> <p>○高知県洋蘭生産組合トレードフェア2014in大阪(11/4)における、蘭遊六志会メンバーの売上は30,725千円</p> <p>◆体制の充実・強化</p>	<p>・ネットショップ立上げ(9月)</p> <p>・海外販売候補地視察(1回)</p> <p>・展示商談会への出展(4回)</p> <p>・宿毛市での洋ランフェアの開催(1回)</p>
<p>3 有機農業普及・拡大事業</p> <p>《四万十市》</p> <p>安全・安心な有機栽培による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○有機農業の普及拡大(H21～H26)</p> <p>○高付加価値農業の研修(H21～H26)</p> <p>四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催し、高付加価値農業の栽培面積が増加</p> <p>○有機農産物流通システム推進事業(H22～H26)</p> <p>50軒の家庭へ有機野菜を宅配し、学校給食以外への有機野菜の流通システムを構築した。</p> <p>○緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施</p> <p>◆有機農産物のさらなる認知度向上</p> <p>◆有機農産物の栽培技術の向上</p> <p>◆需要の拡大(PRと販売促進)</p> <p>◆後継者育成(専門的知識のある指導者の人材)</p>	<p>・「環境にやさしい農業を考える会」定例会の開催(9回)</p> <p>・取引先、直販所等の視察研修実施(1回)</p> <p>・物産展への出品(1回)</p> <p>・小学生を対象にした農作業体験(芋掘り)の実施</p>
<p>4 6次産業化推進による地域農業振興事業</p> <p>《大月町》</p> <p>ケール等の農産物の加工設備を整備し生産拡大に取り組むとともに、その他地域農産物についても、加工品等開発、販路拡大に取り組む。これにより、地域農家との連携協力体制を構築し、遊休農地の活用につなげるとともに、地域農産物の生産拡大、加工品開発、販売強化を通じて、地域雇用を生み出す。</p> <p>【(株)大月農園】</p>	<p>○雇用者数:3名(H26)</p> <p>◆取引先との安定的、良質な関係づくり</p> <p>◆質・量ともに安定した生産(天候や病害虫対策)</p> <p>◆経営計画づくりと将来を見据えた投資</p> <p>◆事業をマネジメントできる人づくり</p>	<p>・ケール栽培面積:約2ha</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 販売額1,500万円以上の農業経営体数 (H22: 2経営体) 【目標(H27)】 10経営体
		【指標】 売上高 H23: 85,197千円 【目標(H27)】 128,300千円
・農作業体験への参加: 2校		【指標】 環境にやさしい農業取組面積の増加 (H22: 約1,000a) 有機野菜の出荷率出荷量の増加(学校給食) (H22: 約30%) 【目標(H27)】 面積 2,500a 出荷率 50%
・ケール収穫: 約30t	・売上高: 4,759千円(H27.6~12月)	【指標】 売上高 (H24: 33,138千円) 【目標(H27)】 35,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>5 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築</p> <p>《三原村》</p> <p>三原村の環境を生かした中山間の農業振興策として、農業公社を核としたユズ、ブロッコリーの産地化を目指す。</p> <p>【(公財)三原村農業公社、三原村、JA高知はた】</p>	<p>○ユズの産地化の推進(H20～23)</p> <p>・幡多管内ユズ栽培面積・生産量…H19: 56ha、488t→H23:79ha、642t (うち三原村:H19:7.6ha→H23:22.1ha)</p> <p>○生産量拡大と有利販売の推進(H20～)</p> <p>・青果率向上対策としてJA高知はた全域で共同選果体制構築。市場評価が向上。</p> <p>○栽培維持、発展に向けた支援システムの構築(H21～)</p> <p>・三原村農業公社が農地集積し、ユズ10ha、ブロッコリー1.2haを直接栽培。常勤6名雇用、農作業受託・機械リース等、中山間地域の新たなビジネスモデルの推進。</p> <p>○H24産業振興アドバイザー事業活用(加工施設導入に向けた課題の共有化)</p> <p>○三原村でのユズ生産量等(H24～)</p> <p>・生産量=H24:90.8t→H25:115.8t</p> <p>・販売金額=H24:12,515千円→H25:17,363千円→H26:16,660千円(見込み)</p> <p>・栽培面積=H24:31ha(うち公社15.6ha)→H25:32.5ha(うち公社17.7ha)→H26:36.5ha(うち公社21.7ha)</p> <p>○三原村農業公社による酢玉・加工ユズ販路開拓(H25:1社、105t)</p> <p>◆生産拡大に伴うユズ果汁過剰による加工用ユズ価格の低下、高齢者率増加・後継者不足、新規生産者の確保、ユズ加工製品増加による競争激化等。</p>	<p>・平成26年度高知県産業振興推進総合支援事業によるユズ加工施設整備事業(建物)の実施(繰越 交付決定H26.10.2) 総事業費:291,600千円(内補助金交付決定額 県:50,000千円)</p> <p>・平成27年度農山漁村活性化プロジェクト支援交付金による選果機の導入 総事業費:140,400千円(内交付金 国:59,732千円)</p> <p>・三原村ユズ選果・搾汁施設外構工事による造成等の外構工事の実施 総事業費:30,402千円(村単独)</p> <p>・平成27年度農村集落活性化支援事業での三原村集落活性化協議会から新規就農業務の委託 総事業費:9,561千円(内国:9,561千円) 内委託:6,195千円</p> <p>・IUターン希望者への説明会 4回</p> <p>・栽培講習会 18回</p> <p>・先進地視察研修 1回</p>
<p>6 「若山椿」ブランド復活プロジェクト</p> <p>《黒潮町》</p> <p>古くから地域で特産品となっていた「若山椿」の産地復活を目指した、栽培拡大および加工技術向上による産地・ブランド化に取り組む。</p> <p>【黒潮町、黒潮町佐賀北部地域協議会】</p>	<p>○椿栽培の推進(H21～) 栽培面積(収穫量)…H21:32a(0.6t)、H22:37a(1.2t)、H23:39a(1.2t)、H24:59a(1.0t)、H25:71a(0.9t)、H26:71a(1.7t) (うち遊休農地利用栽培面積11a)</p> <p>○当初5年間(H20～24)の継続補助予定であった国事業(200万円×5年)が事業仕分けによりH21をもって終了。計画全体を見直し、H26から集落活動センター事業として地道な栽培管理活動に取り組む中で、収穫量も少しずつ増加してきている。</p> <p>○「若山椿が古文書修復に適している」として、専門分野((一財)紙守)からの継続発注や単価アップが見られるなど今後に期待が持てる。</p> <p>◆栽培、生産活動の維持、継続に係る地域内の検討不足</p> <p>◆安定した収穫量及び売上の増加</p> <p>◆マンパワー不足及び高齢化</p>	<p>・活動検討会開催(月1回):12月末現在:9回</p> <p>・こうち山の日推進事業費補助金の採択(椿蒸し剥ぎイベント(12月)の実施)</p> <p>・集落活動センター事業の一環として、蒸し剥ぎイベントの開催について町内全域ヘチラシを全戸配布</p> <p>・蒸し剥ぎ体験・イベントの開催(12/12,13)</p>
<p>7 弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町馬荷地区で栽培されている「七立栗」の生産を拡大し町の特産品にすることで、地域の活性化と産業の創出を目指す。</p> <p>【七立栗生産組合、黒潮町】</p>	<p>○七立栗出荷農家数(面積) H21:1戸(10a)、H22:5戸(20a)、H23:7戸(43a)、H24:10戸(66a)、H25:10戸(71a)、H26:8戸(72a)</p> <p>○七立栗出荷量 H22:6,120本、H23:4,605本、H24:10,010本、H25:12,675本、H26:11,040本</p> <p>○集荷場建設(総事業費441万:集落営農補助金:県・町・実施主体各1/3負担)。(H23)</p> <p>○当初計画していた温泉施設は、財源の問題より困難と判断した。(H24)</p> <p>○七立栗を花き(枝栗)として出荷する際の品質や収量、流通についての問題点が明確となり、生産者の生産に対する意識がまとまり始めた。(H25)</p> <p>○大田市場への定期出荷が始まり新たな販路を確保できた。また、高単価規格の枝を出荷する意識が高まってきた。(H26)</p> <p>◆生産力の向上(栽培面積、出荷量の増加、高単価規格の生産増加)</p> <p>◆高品質枝栗の生産(枝栗栽培方法の確立、病害虫対策の実施)</p> <p>◆耕作放棄地の活用</p>	<p>・病害虫共同防除(4回)</p> <p>・品質向上のための巡回活動(3回)</p> <p>・着果状況等生育調査(2回)</p> <p>・販売・経営勉強会(1回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 ユズ生産量 (H19:65t) (H22:74t) 栽培面積 (H19:7.6ha) (H22:22ha) 販売金額(農家手取額) (H24:12,515千円) (H25:17,363千円) 【目標(H27)】 400t 50ha 27,500千円
・蒸し剥ぎ体験・イベントへの参加者:約150人	・ <u>楮収穫量:1,700kg(見込)</u>	【指標】 栽培面積 (H22:37a) 楮収穫量 (H22:1,232kg) 【目標(H27)】 栽培面積 60a 楮収穫量 2,900kg
	<u>出荷量:10,420本(前年比94%)</u> <u>秀品率:13.6%(前年比114%)</u>	【指標】 栽培面積 (H19:10a) (H22:20a) 出荷量 (H22:6,120本) 【目標(H27)】 栽培面積 140a 出荷量 35,000本

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>8 森の工場・間伐の推進</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>意欲がある林業事業者が中心になり、一定規模のまとまりのある森林を対象に森林所有者から長期に施業を受託することによって、森林の管理や施業などを集約する森林経営の団地を「森の工場」として認定し、木材を安定的に供給する産地体制を確保するとともに、地域の森林資源の充実を図るための間伐を積極的に推進する。</p> <p>【森の工場の認定を受けた事業者】</p>	<p>○H21～H26に高性能林業機械等38台導入、作業道開設269kmの整備を行った。 木材生産量:75,385m³(H21-23累計:32,554m³+H24:19,446m³+H25:11,850m³+H26:11,535m³) ○森林施業プランナー養成研修を支援することにより、一次試験の受験資格者が25名となった。 ○森の工場は建設業の参入を含め36工場を新設した。(H21～H23:22工場+H24:4工場+H25:4工場+H26:6工場-1期間満了:8工場) ◆集約化の推進による森の工場の設置 ◆基盤整備推進による木材生産性の向上 ◆技術者の養成 ◆事業者の経営改善</p>	<p>・作業道開設技術向上のための現地研修の実施(8事業者24名参加) ・生産性向上のための繊維ロープを活用した集材研修の実施(7事業者11名参加)</p>
<p>9 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>平成22年度に建築したモデルハウス「四万十の家」をPRすることで四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進する。また、四万十ヒノキのブランド化を図り、地域内外への販売を促進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○H23.4月よりモデルハウス利用開始、林業関連事業者の学習会場としての利用や一般利用等、当初目標以上の利用状況であり、地域産ヒノキの積極的なPRにつながった。 ○4市町村(四万十市、三原村、四万十町、中土佐町)による推進協議会の発足により、地域産ヒノキのブランド化に向けて組織体制を強化した。 ○H23～H26の工事着工件数:124戸(H26:34戸) ◆各市町村の取り組みを連携させる必要がある。</p>	<p>・市産材利用促進事業の受付件数:15件 ・ホームページのリニューアルによるPR強化 ・もくもくランドへの出展(10/24～25) ・幡多山もりフェスへの出展(11/1)</p>
<p>10 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業</p> <p>《大月町》</p> <p>町内の最高級のウバメガシや山林資源を活用して、古くから行われていた土佐備長炭の復活など、製炭の産業化を目指す。</p> <p>【大月町備長炭生産組合】</p>	<p>○H23、H24産業振興総合補助金を活用し、生産窯を6基設置(H23:2基、H24:4基)。町単独補助金を活用し設置した窯4基(H22:1基、H27:3基)と合わせ、計10基(H27.3月末時点)となり、生産施設の整備が進んだ。 ○生産者数の増 3名(H23)→9名(H26) ○出荷量の増加 16,892kg(H23)→75,700kg(H26) ○入室市での研修を延べ11名が受講。 ◆収益の多様化、販売チャネルの多角化 ◆原木の安定供給のため、契約山林と林業者の分散が必要 ◆生産量の増と質の向上が必要</p>	<p>・原木供給に必要な作業道の開設にH27高知県地域林業総合支援事業を活用 ・大月町産業祭への出展</p>
<p>11 地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市片島地区に施設を整備し、水産加工物製造・販売を展開することで、漁業者所得向上や、雇用創出、地産地消・外商を進めていく。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H21産業振興総合補助金を活用し、加工施設・冷凍冷蔵施設・保冷運搬車両を整備、同年10月から製造・販売スタート。 ○売上は、H22:17,552千円、H23:27,602千円、H24:27,791千円、H25:32,651千円、H26:37,553千円と増加傾向。 ○鮮魚フィレの生産量は、H22:12t、H23:20t、H24:13t、H25:20t、H26:14t。冷凍キビナゴの生産量は、H22:3.6t、H23:約7t、H24:4.1t、H25:1.7t、H26:0.8tと漁獲量により上下。 ◆原魚の安定調達による作業効率の向上、増産、販路拡大 ◆利益率の高い商品の開発及び販路開拓</p>	<p>・宿毛市及び大月町の補助事業を活用し、“スモークさばのオリブオイル漬け”のパッケージデザインの作成等に着手。 ・マグロの内臓を試験的に仕入れ、一次処理・冷凍したサンプル品で営業活動を実施。 ・シーフードショー東京への出展 ・首都圏の鮮魚チェーン店での“すくもスモーク”試験販売実施(10/17,18)。</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・新規の森の工場:4地区		【指標】 森の工場の木材生産量 (H22 13,871m ³) 【目標(H27)】 20,000m ³
		【指標】 「四万十の家」着工戸数 【目標(H27)】 30戸
・作業道の開設(1,000m)	・生産量:82t(H27.4~11月) ・販売額:29,486千円(H27.4~11月)	【指標】 備長炭販売量・生産窯・生産者 【目標(H27)】 販売量 240t 生産窯 20基 生産者 20人
・スモークさばのパッケージデザイン完成。商品名は“すくもスモーク”。		【指標】 冷凍フィレ、冷凍キビナゴ生産量 (H22) (冷凍フィレ12.3t) (冷凍キビナゴ3.6t) 【目標(H27)】 冷凍フィレ 30t 冷凍キビナゴ 15t

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立で数量的に見える形で示すこと〉
<p>12 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>民間事業者による宿毛湾の魚の利用促進・消費拡大及び地元雇用の創出を目指す。</p> <p>【株式会社ピアサーティー】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、施設整備。</p> <p>○H26ステップアップ事業を活用し、活魚中国輸出に関する実証実験及び商談を実施。</p> <p>○県産業振興アドバイザー制度活用による新商品開発(H26)</p> <p>○売上高・・・H22:140,000千円、H23:160,000千円、H24:180,000千円、H25:202,107千円、H26:270,253千円</p> <p>○宿毛湾産の魚使用量・・・H23:60,821kg、H24:51,010kg、H25:66,058kg、H26:59,937kg</p> <p>○施設の規模拡大により衛生管理面の向上とあわせて、贈答用商品の製造や刺身用食材の提供が可能となった。</p> <p>◆雇用の確保による営業力の向上</p> <p>◆県版HACCPの取得による衛生管理の強化</p>	<p>・自社レストランでの「春の鯛まつり」、「鯉フェア」、「ぶりフェア」等を開催し、宿毛湾産魚のPRを実施</p> <p>・宿毛湾産魚をメイン商材とするレストランチェーン「龍神丸」の新規店舗2店増</p>
<p>13 民間企業との連携による水産物の販路拡大</p> <p>《宿毛市・大月町》</p> <p>漁協・民間会社連携による前処理加工施設を漁協市場付近に整備し、地元水産物の付加価値向上と販路拡大に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H22産振総合補助金を活用し、加工施設等を整備。H23.4月下旬から稼働。キビナゴやイワシ類を使用した惣菜を製造し、首都圏等の飲食企業へ出荷中。売上高は徐々に増加。</p> <p>○高知県食品高度衛生管理手法認定取得(H26.1)</p> <p>○加工機器整備(H26.8)</p> <p>○H26に養殖魚のフィレ加工を開始。6ヶ月間で宿毛湾産の養殖ブリを約4万尾(150トン)加工。養殖魚の地産外販に貢献。</p> <p>○地元雇用の継続及びパート職員から正規職員に採用(1名)。雇用面における地域経済への波及効果あり。H27年3月末現在7名の雇用。</p> <p>◆売上拡大</p> <p>◆養殖魚の加工体制の構築</p>	<p>・高知県水産加工業連携促進事業を活用し、フィレマシンを整備(4/24)</p> <p>・高知県産業振興アドバイザー制度を活用し、プリフィレ加工のコーディネート業務について講習を受ける。</p> <p>・すくも湾漁協が高知県漁業生産基盤維持向上事業を活用し、販促品(POP等)を製作(6/30交付決定)</p>
<p>14 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用し、消費者ニーズに基づく商品開発・生産体制充実・販売促進に取り組むことで、地域ブランド確立および原材料そのものの付加価値化を図る。</p> <p>【株式会社 沖の島水産】</p>	<p>○県「弥太郎! 商人塾」に参加(H22、23、25、26)</p> <p>○県ステップアップ事業による冷凍施設整備、パッケージデザイン、販売促進の実施</p> <p>○県産業振興総合補助金活用による加工施設整備(H25)</p> <p>○県産業振興アドバイザー制度活用による新商品の磨き上げ(H26)</p> <p>○加工品売上高・・・H22:8,000千円、H23:19,290千円、H24:42,090千円、H25:71,580千円、H26:130,216千円</p> <p>◆販路の拡大のための設備強化・商品の磨き上げ</p> <p>◆事業効率化のための新規雇用及び社員教育</p>	<p>・催事等参加25回(4~12月)</p> <p>・新商品開発(2商品)(うち1商品は産業振興アドバイザー制度の活用による)</p> <p>・海外(オーストラリア・ニュージーランド及び台湾)への事業展開</p> <p>・ものづくり・商業・サービス革新補助金の交付決定(9月)</p>
<p>15 加工場の整備による付加価値の高い養殖魚の加工品の販売</p> <p>《宿毛市》</p> <p>養殖場近辺に加工設備を整備する。鮮魚の鮮度を保持した付加価値の高い加工品製造に取り組み、通年・一定価格で販売することにより経営の安定化を図り、地域漁家との連携協力体制を構築して、宿毛湾産養殖魚のPRを実施するとともに、漁業者の減少を防ぎ、地域雇を生み出す。</p> <p>【株式会社勇進】</p>		<p>・「目指せ! 弥太郎商人塾」臼井クラスに参加</p> <p>・産地視察型商談会に参加</p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金交付決定(7/13 事業費117,842千円、県補助額50,000千円、加工施設整備)</p> <p>・展示商談会等への出展(8回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・レストラン新規出店により、宿毛湾産魚の使用量が増える見込み。	・H27.4～11月 売上金額:200,653千円(前年比118%) 宿毛湾産の魚使用量:31,221kg(前年比68%)	【指標】 年間売上 (H22:140,000千円) 【目標(H27)】 270,000千円
・コーディネート業務実施のためのスキルを習得(2名)	・4～11月の原魚供給高:13,095千円 ・5～11月のプリフィレ加工尾数は72,666尾、原魚重量で269.5t、すくも湾漁協のプリ供給高は213,277千円 ・雇用の創出 職員2名、パート9名(11月末現在)	【指標】 原魚供給高 【目標(H27)】 1.19億円
・リキッド・フリーザーの追加導入	・新規雇用8名(うち、正社員2名・パート6名(12月現在)) ・従業員数:22名(12月現在)	【指標】 加工品売上高 (H22:8,000千円) 【目標(H27)】 110,000千円
・商談開始社数:29社(11月現在) ・成約件数:17件(11月末現在)	・従業員数:3名(11月現在)	【指標】 加工品売上高 (H26:実績なし) 【目標(H27)】 54,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>16 サメ漁業の復活に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>サメ肉の加工品の開発と販路開拓により、サメ漁業が成立する浜値で取引される仕組みを構築するとともに、サメによる漁業被害の軽減を図る。</p> <p>【土佐清水市水産振興協議会】</p>	<p>○漁獲されたサメを安定した価格で買い上げ、加工商品とすることで、サメ漁業復活のきっかけづくりとなった。</p> <p>○H22産業振興総合補助金を活用し、商品開発を継続。サメ肉で主にペットフードを開発して、従来販売されている商品に比べ、宗田節加工場で加工することによってアンモニア臭が抑えられ、ペットの嗜好性が非常に高いものに仕上がった。</p> <p>○ペットフードについて、大手ペット用品業者との商談の結果、商品開発(ネーミング及びパッケージ)・販売の協力が得られ、H23年9月の展示・商談会以降、約6000パックの注文があり、今後の販売増に期待が持てる。</p> <p>○製造ラインにおける様々な課題については、解決に向けて一定目途が立った。</p> <p>・H24年度サメ漁獲量:約1t</p> <p>・H26年度サメ漁獲量:約2t(39尾)</p> <p>◆取組全体のコーディネータ役の育成</p> <p>◆これまでのペットフード加工業者がH25年に廃業したため、新たな加工業者の確保</p>	<p>・漁業被害対策推進事業(マグロはえ縄船を用いたサメ漁獲試験)の実施(5回)</p>
<p>17 宗田節の販路拡大に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>宗田節加工業は、蕎麦屋等の業務用需要に支えられてきたが、食の多様化等により需要が減少しているため、一般消費者を直接ターゲットにした商品開発や宗田節のPR等を展開し、消費の拡大を図る。</p> <p>【宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市】</p>	<p>○宗田節をもっと知ってもらいたい委員会(H22設立:以下「宗田節委員会」)が、県内を中心とした宗田節のPR活動を展開し、宗田節の認知度が一定向上した。</p> <p>○(株)土佐清水元氣プロジェクト(以下「元氣プロ」)が新商品の開発に取り組み、H23年度に4品目、H24年度に3品目が完成し、販売を開始した。</p> <p>○新商品売上実績の増加:H24 887万円→H25 1,650万円→H26 2,495万円(7アイテム)</p> <p>◆宗田節の認知度が一定向上、新商品の販売も順調に伸びてきており、今後もPR活動を継続するとともに新商品の更なる販路開拓が必要</p>	<p>(元氣プロの取組)</p> <p>・催事・商談会へ参加(11回)</p> <p>・県内量販店等での試食販売を実施(21回)</p> <p>(宗田節委員会の取組)</p> <p>・高知龍馬空港で宗田節のダシを使った季節食品の試食提供を実施(8/13:ところてん、12/28:年越しそば)</p> <p>・県内外のイベントにて宗田節入りの茶節を提供(4回)</p> <p>土佐清水市観光物産フェア(9/5~6、大阪府豊中市)、ジョン万秋の元氣まつり(9/20)、幡多フェア(11/28~29)、航空自衛隊土佐清水分屯基地開庁20周年記念行事(12/20)</p> <p>・土佐清水市内宿泊施設へ朝食の味噌汁に使用する宗田節を提供(10/26~2月末まで)</p>
<p>18 “川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十川の恵みを支える汽水域を中心とした河川環境や漁業資源を継続的にモニタリングしながら、流域住民が四万十川の漁業資源を持続的に利用できるようマネジメントできる枠組みを作っていく。あわせて、アユやアオノリをはじめ、四万十川の恵みを地域外に付加価値を付けて売り出す方策を探っていき、“川辺の暮らし”が永続的に営まれるようなかつての豊かな四万十川の再生を目指す。</p> <p>【四万十市、四万十市高知大学連携事業推進会議、四万十川下流漁業協同組合】</p>	<p>○アユやスジアオノリの枯渇原因については、多くの要因が言われてきたが、四万十市と高知大学が連携して科学的な原因究明に乗り出し、「汽水域シンポジウム」や連携事業の報告会を介して、関係機関や地域住民と情報交換を行う事で、徐々にではあるが原因究明や資源復活に向けての協力体制が出来つつある。</p> <p>○H21年より試験的にはじめた下流漁協のアオノリやアオサノリの製造・販売事業について、H23年10月に六次産業化法に基づく総合化事業計画の二次認定を受け、H24年8月には補助金も交付され、販路開拓や商品開発についても、一定目途が立った。</p> <p>○H25年度のスジアオノリの生育状況が非常に良く、豊漁となった(約9t)。豊漁の要因としては海水温の低下する時期が早かったことがあげられた。</p> <p>◆アユやスジアオノリの天然資源が長期低落傾向にあり、テナガエビ類の漁獲量も減少している。天然資源量の調査や、枯渇原因の究明と有効な対策が急務である。</p> <p>◆漁業関係者との情報共有の強化</p>	<p>・内水面漁業資源保全事業の実施(資源調査)</p>
<p>19 キビナゴ加工商品の生産体制強化</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品加工体制の基盤強化を図るとともに、大月町道の駅等との連携による県内外の販売促進活動を行う。このことにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大、連携先の売上増等につなげる。</p> <p>【八重丸水産】</p>	<p>○加工場の改修、攪拌機整備(H23)、県外展示会への出展(H24、東京・大阪)</p> <p>○商品開発:ゆず味(H23)、塩麹味(H24)、化学調味料不使用タイプ(醤油、塩麹)(H25)、いりこっこ、豆きび(H26)</p> <p>○販促資材の充実(H24)</p> <p>○きびなごケンピ販売袋数H24:118千袋/H25:133千袋/H26:110千袋</p> <p>○平成23年度高知県地場産業奨励賞受賞</p> <p>○ファストフィッシュ商品に認定(H24、H26)</p> <p>○パッケージリニューアル、45g(プレーン、塩麹)、100g(プレーン)(H24)</p> <p>◆キビナゴ原魚は、天然水産物のため収量が安定しない</p> <p>◆事業規模が大きくなり、経理・管理業務が増大</p> <p>◆中期的な経営計画、方針の策定</p>	<p>・商談会への出展(6回)</p> <p>・小規模事業者持続化補助金を活用して真空パック機を導入</p> <p>・パッケージデザインリニューアル(70g商品)及び30g商品の商品化</p> <p>・ものづくり・商業・サービス革新補助金採択決定(事業費:3,500,000円、H26補正:補助金額2,333,333円、包装機の導入)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・サメ水揚げ 計90尾 ・サメ漁獲試験実施後、実施地点ではサメ被害の軽減が見られた		【指標】 年間のサメ漁獲量 (H22:1.4t) 【目標(H27)】 10t
・新規商談件数23先、うち1先と商談成立、15先と商談継続中	・宗田節関連商品販売額 H27.4～9月:3,009万円 (参考:H26年4～9月:1,377万円)	【指標】 宗田節新製品の売上 【目標(H27)】 2,700万円
	・H27年度上半期アオサノリ・スジアオノリ販売金額: 1,053,410円 (内訳) アオサノリ 小分けパック 474,330円 粉末パック 237,200円 スジアオノリ 小分けパック 329,880円 粉末パック 12,000円	【指標】 スジアオノリ、アオサノリの漁協販売金額 (H22:49万円) 【目標(H27)】 625万円
・新規取引先件数 19件	・H27販売袋数(1～11月):111,537袋(前年比120%)	【指標】 きびなごケンピの販売袋数 (H22:5.3万袋) 【目標(H27)】 14.2万袋

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>20 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町種苗生産施設の県内民間事業者による活用を図り、養殖用種苗としてのマダイ・シマアジの増産による市場シェアの拡大、カンパチ等新魚種の生産技術確立によるビジネスチャンスの拡大を目指す。</p> <p>【大月町、(株)山崎技研】</p>	<p>○H24.4月～ 大月町種苗生産施設貸付契約締結</p> <p>○H24産業振興総合補助金を活用し種苗の海上育成用施設整備(H24.9月)</p> <p>○雇用の創出6名(正規3名、パート3名 H27.3月現在)</p> <p>○H24.4月～ 放流用種苗の生産</p> <p>○H24.11月～ マダイの生産開始</p> <p>○H24.11月～ シマアジ種苗の生産</p> <p>○H26.1月～ カンパチ受精卵の採卵に成功</p> <p>◆マダイ、シマアジ種苗の安定生産と魚病対策</p> <p>◆カンパチ人工採卵技術の確立及び孵化後の生残率の向上</p>	<p>・シマアジ種苗生産開始(11月～)</p>
<p>21 衛生管理強化による干物等水産加工品販路拡大事業</p> <p>《大月町》</p> <p>衛生管理を強化した加工場の新設や増産に向けた加工機器の導入を行うことにより、従来取引のなかった業務筋・小売業などの販路拡大を図るとともに、個人の休眠顧客等に対し、掘り起こしを行う。原魚調達についても地元商人との連携により多様な食材に対応できる商品ラインアップの拡充を進める。</p> <p>【土佐大月海産】</p>	<p>◆安定かつ安価な原魚の確保</p> <p>◆販路開拓・営業の強化</p> <p>◆商品パッケージ、ブランド展開の検討</p>	<p>・産業振興推進総合支援事業費補助金交付決定(4/6)</p> <p>総事業費：9,896,580円(内、補助金交付決定額：4,581千円、冷蔵庫等設備整備)</p> <p>・県版HACCP講座受講(4回)</p> <p>・食品生産管理高度化講座受講(5回)</p> <p>・商品パッケージデザインのリニューアル</p> <p>・消費税軽減策窓口相談等事業(商工会)導入</p> <p>・HPリニューアル</p>
<p>22 直七の生産、加工、販売の促進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。</p> <p>【直七生産組合、直七の里(株)、直七酒販(株)】</p>	<p>○生産組合の設立(H21)</p> <p>○搾汁施設等の整備(H22:産業振興総合補助金の活用)</p> <p>○新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22～23)</p> <p>○すくも湾漁協と連携し、「直七マダイ」の開発(H24～25)</p> <p>○直七生産量(果実ベース)の増大</p> <p>・H20:13t→H21:10t→H22:21t→H23:36t→H24:66t→H25:103t→H26:130t</p> <p>◆生産拡大に向けた取組(生産者・生産面積の追加、新商品の開発及び販路の拡大)</p> <p>◆搾汁の効率化に向けた設備導入</p>	<p>・直七産地化推進事業業務の委託(宿毛市(地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金活用事業))</p> <p>・法人化による組織体制の強化(5/12 直七生産組合⇒直七生産(株))</p> <p>・生産量増加に向けて追加植樹開始(10月～)</p>
<p>23 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり</p> <p>《宿毛市》</p> <p>地域の特産である柑橘類や焼酎等を活用した新たなスイーツづくりをはじめ、宿毛湾で獲れた魚や牛肉、豚肉を活用した商品開発や生産拡大のための施設整備を行うことにより、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【幡多美味工房、地域事業者等】</p>	<p>○商品製造施設整備(【厚生労働省】H23:創業支援助成金)</p> <p>○新商品の開発:5アイテム(H23)→25アイテム(H26)</p> <p>○販路の開拓:3社(H24)→7社(H26)</p> <p>◆販路拡大</p>	<p>・イベント出展(9回)</p> <p>・幡多広域特産品等県外発信支援事業補助金を活用(県外フェア出展のための旅費)</p>
<p>24 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域資源としての「食」の再生・活性化を官民協働のもと、地域が一体となって実施するとともに、大岐・三岐地区開発による施設整備等への取組と併せて、雇用の創出と地域の再生を推進する。</p> <p>【土佐食(株)、土佐清水市】</p>	<p>○販売額及び雇用について、順調(十分)に成果を上げている。(～H26)</p> <p>○産業振興総合補助金を活用し、機器等を導入したことで、ペットフード安全法改正に適應でき、かつ新商品開発も可能となった。(H22～)</p> <p>◆売上全体の1割程度に留まっている食品部門の販売拡大</p> <p>◆原魚の安定確保</p>	<p>・展示会等への参加:11回</p> <p>・新商品・宗田屋だしシリーズの販売開始</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 マダイ、シマアジ種苗生産(出荷)尾数 【目標(H27)】 マダイ 100万尾 シマアジ 50万尾
・設備整備完了により、作業効率及び衛生管理が向上。	・お中元の受注:754件、売上高3,366千円	【指標】 売上高 (H25:13,000千円) 【目標(H27)】 17,500千円
・追加植樹:1,770本 1.8ha(12月末現在)	・栽培指導員(パート)1名、事務職員(パート)2名の雇用 ・直七生産(株)従業員数:3名(11月末現在) ・果実生産量:117t	【指標】 直七果実生産量 (H22:21t) 【目標(H27)】 200t
		【指標】 ・新商品の開発 ・取引先数(H24:3社) 【目標(H27)】 ・8アイテム ・5社
・食品の取引店舗数(11月末累計):169店舗	・雇用者全体(9月末累計):197人 ・水産物の活用(11月末累計):約3,000t ・売上額全体(9月末累計):8.54億円	【指標】 雇用者(臨時・パートを含む) (H19:124人) (H22:170人) 地元水産物の活用 (H19:2,079t) (H22:2,580t) 売上額 (H22:13.6億円) 【目標(H27)】 200人 2,800t 15億円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

< 幡多地域 >

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>25 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>大岐地区に整備される加工施設に生産者が参画できる仕組みづくりや加工された商品を市内外の市場に流通及び販売する仕組みを構築する。また、加工品の一般消費者向けの個別配送、海外への販路拡大など、地域資源を活かした経済の活性化を推進する。</p> <p>【(株)土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市】</p>	<p>○産業振興総合補助金を活用し、農産物の集出荷システムを構築。(H21)</p> <p>○特産品の開発と統一ブランド作り。販売を開始。(H22～)</p> <p>○産業振興センター助成事業(経営革新計画支援事業)を活用し、OEM生産体制づくり並びに商品開発。(H24～)</p> <p>○『土佐の清水さば漁師漬け』が日本経済新聞NIKKEIプラス1「何でもランキング」で“全国1位”を獲得。売上額がH25/H24比約3倍増。(H25)</p> <p>○宗田だしシリーズが好調を維持(連年前年度超え)。(H24～)</p> <p>○『宗田だし小夏ノンオイルドレッシング』がスーパーマーケットトレードショー2015で「フード30選」に選出され、販売額が増加。</p> <p>○一次加工施設稼働開始(未利用資源(水産物)の活用)。(H26)</p> <p>◆原魚の安定確保</p> <p>◆売れ筋商品の販路・販売の拡大</p> <p>◆工房及び冷凍施設の稼働効率向上(水産振興策(漁業者含め)との連携)</p>	<p>・OEM生産事業の実施(H24～)</p> <p>・県内外催事等での販促PR活動(県内:11回(うち、高知市内:7回)、県外14回(内訳:東京2回、名古屋1回、大阪5回、神戸1回、岡山1回、広島2回、香川2回))</p> <p>・商談会等への参加:8回</p> <p>・一次加工施設(県漁協が整備した施設)の運営</p>
<p>26 土佐清水発!宗田節が良くなる加工施設整備・販路拡大事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制の充実により、販売・販路の拡大を図るとともに、新たな商品開発等へも取り組みながら、宗田節生産者の所得向上及び地域の安定した雇用の創出を目指す。</p> <p>【(株)ウェルカムジョン万カンパニー】</p>	<p>○平成22年7月の立ち上げ以降、『宗田節』を使った加工品を製造・販売。</p> <p>『だしが良くなる宗田節』を主力に、展示会・商談会等へも積極的に参加し、販路拡大にも取り組んでいる。(～H26)</p> <p>○産業振興総合補助金を活用し、加工施設を整備。加工施設の整備により、商品の衛生的かつ安定的な製造体制を構築。(H26)</p> <p>◆販路拡大及び販売促進</p> <p>◆新商品開発・改良</p> <p>◆営業部門の強化</p>	<p>・商談会等への参加:2回</p> <p>・県内外催事等での販促PR活動:7回(県内:4回、東京:2回、岡山:1回)</p>
<p>27 地元農産物を使った商品開発事業</p> <p>《四万十市》</p> <p>農業と製造業が連携し、相互のノウハウを活かした新商品を開発・販売することにより、地産地消・外商および地域の活性化を推進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○商品開発・販売(H22～) 市農商工連携支援及び県ステップアップ事業により、事業者の要望やレベルに応じた支援の結果、5プロジェクト、20アイテム(H26度末時点)の新商品が完成・販売中。それぞれの販促活動により、都市部の販路獲得という成果も得られている。</p> <p>○実績から得られた経験を活かした新たな商品開発のほか、各プロジェクト事業者間相互の情報交換やアドバイス、ネットワークも構築されつつある。</p> <p>◆新規農商工連携プロジェクトの掘り起こし</p> <p>◆商品PRと販路拡大(地域内外への販売戦略)</p> <p>◆生産体制の確立(加工設備の高度化検討、原材料確保のための連携強化)</p>	<p>・商談(会) 11回</p> <p>・販促活動 45回(66日)</p> <p>・検討チーム会 4回</p> <p>・法人化による組織体制の強化(4/1 チームぶしゅかん⇒四万十ぶしゅかん(株)に変更)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・新規取引業者数(10月末累計):24社 [全体:258社(県内115社、県外143社)] ・OEM生産商品:12アイテム ・商談会等での商談件数:53件 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用者全体(10月末累計):57人 (前年度と比べ新規雇用なし) ・農産物等の活用(10月末累計):約135.2t ・水産物活用(一次加工)約1.4 t(原魚ベース) ・売上額全体(10月末累計):約116,938千円(前年比約161%) 	<p>【指標】 雇用者(臨時・パートを含む) (H22:55人) 地元農産物等の活用 (H22:86t) 売上額 (H22:1.18億円)</p> <p>【目標(H27)】 70人 100t 2.5億円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・商談会等での商談件数:13件 ・宗田節おかきが高知家お土産コンクール2015の大賞を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高(1~9月末累計):約42,231千円(前年比約124%) ・新規雇用:パート1名 	<p>【指標】 売上高 (H24:22,000千円)</p> <p>【目標(H27)】 36,000千円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新規取引件数 31件 		<p>【指標】 新商品の開発 (H22:7アイテム)</p> <p>【目標(H27)】 15アイテム</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>28 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。</p> <p>【まちづくり四万十(株)】</p>	<p>○四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21.9~)</p> <p>○「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般を改善(H21~H23)</p> <p>○H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。</p> <p>総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2リニューアルオープン。リニューアルオープン後は、売上額は順調に推移。</p> <p>(H22:31,121千円→H24:44,709千円→H25:45,172千円→H26:43,895千円)</p> <p>○集荷業務は約40名に対応しており、定着してきている。</p> <p>○H23にふるさと雇用事業で雇用した2名をH24から正職員とした。</p> <p>(H26:常勤3名、パート5名)</p> <p>◆目標販売額の達成、集荷・宅配業務の継続、催事、交流スペースの有効活用</p>	<p>・市場からの仕入れ開始(8月)</p> <p>・催事スペースを活用した老人会等の開催(月2回程度)</p>
<p>29 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト</p> <p>《四万十市》</p> <p>西土佐地区の栗園再生に向け、「より高く、より多く売るしくみ」と「栽培しやすい環境づくり」を平行して取り組むことで、地域内外を巻き込んだ新しい地域ビジネスを目指す。</p> <p>【(株)しまんと美野里、四万十川を良くする会、四万十市、西土佐商工会】</p>	<p>○H21「(株)しまんと美野里」設立(H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設、氷感庫(凍らせない冷凍保存庫)を導入し、H23.1月より稼働開始)</p> <p>○栗栽培支援として、H23.9月に支援組織「四万十川を良くする会」を設立</p> <p>○H24仕入:8.9t、加工:4.2t、H25仕入:7.1t、加工:3.1t、H26仕入:6.5t、加工:4.0t</p> <p>○H24産振アドバイザー活用により、加工・在庫管理を見直し</p> <p>◆栗の確保(連年の不作と栽培者の高齢化による荒廃化)</p> <p>◆全体計画の策定と、受注~原料確保~加工~販売一連のスケジュール管理</p>	<p>・四万十市地域商品開発研究会への入会(4月)</p> <p>・道の駅「よって西土佐」開業に向けた商品開発ワークショップへの参加(全5回)</p> <p>・原材料(生栗)仕入:8.3t</p>
<p>30 四万十牛の商品開発・販売</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市西土佐地域の畜産家・農家・加工業者が連携し、四万十川にこだわった加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大する。</p> <p>【横山精肉、西土佐中央牧場、西土佐ふるさと市組合】</p>	<p>○新商品サービス開発支援事業(全国商工会連合会)により、新分野進出に向けた経営計画を策定(H25)、商品候補開発:10商品(H25)。</p> <p>◆H27年度中にレンタル畜産施設等整備事業費補助事業を活用した畜舎の増設を行う予定のため、申請・採択に向けた手続き等の迅速な対応。</p> <p>◆畜産施設、精肉店、焼肉店の法人化。</p>	<p>・直営焼肉店のオープン(4/16)</p> <p>・横山精肉の法人化(6/1)</p> <p>・首都圏での外商活動(1回)</p> <p>・道の駅「よって西土佐」の商品開発ワークショップへの参加</p> <p>・レンタル畜産施設等整備事業費補助金採択(9/25)</p> <p>・ベンチャー企業支援事業を活用した商品開発</p>
<p>31 西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出し西土佐プロジェクト)</p> <p>《四万十市》</p> <p>各種団体や地域産業従事者など多様な人材・組織が連携し、地域産品・加工品の開発・販売、体験交流推進、情報発信、施設整備等を行い、幡多地域の北の玄関口としての総合発信拠点を作り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【四万十市、西土佐商工会、地域事業者等】</p>	<p>○H24道の駅基本計画策定</p> <p>○H25道の駅実施設計、H26用地買収</p> <p>地域事業者を含めた検討会を重ねH24基本計画、H25実施設計、H26用地買収。</p> <p>○新商品開発数:H24:5商品、H25:7商品、H26:5商品(H26末累計:22商品)</p> <p>拠点施設開店を見据え、商品開発WSを開催する等、地域事業者それぞれが商品開発に着手(41℃関連商品が増えている)</p> <p>◆運営体制の構築</p> <p>◆H28.2開業に向けた運営ノウハウの習得</p>	<p>・木造公共施設等整備事業費補助金採択(5/21)</p> <p>・産業振興推進アドバイザーを活用した商品開発ワークショップの開催(5回)</p> <p>・木の香るまちづくり推進事業費補助金採択(8/26)</p> <p>・道の駅戦略会議の実施(毎月)</p> <p>・県外での道の駅PR(2回)</p>
<p>32 四万十地域の素材を活かした新たな外商戦略の構築</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市の漁業、農家・加工業者、販売者が連携し、四万十素材を中心として加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大し、地域活性化を目指す。</p> <p>【有限会社せいぶ印刷工房】</p>	<p>○四万十市地域商品研究会の設立(H26)</p> <p>○加工スペースの増設(H26)</p> <p>◆商品アイテムの増加</p> <p>◆研究会を中心とした幡多地域の土産物の開発、ブラッシュアップ</p>	<p>・しまんと百笑かんぱに(株)設立(4/1)</p> <p>・商談会、物産販売 13回</p> <p>・「海外展開のための専門家活用助成事業」に採択(ジェトロ)</p> <p>・地域の頑張る人づくり事業費補助金を活用した研修の実施(商品づくりにおける基本的知識等の習得)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・集荷者数:35名 ・出荷者数:130名	・売上額:29,539千円(H27.4~11月) ・約220人/日の近隣高齢者が固定客として訪れており、 <u>地域拠点として機能している。</u>	【指標】 雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名) 売上額 (H24:44,709千円) 【目標(H27)】 常勤 3名 パート 7名 売上額 60,000千円
・栗加工品製造量:5.5t		【指標】 栗加工品製造量 (H22:1.5t) 原材料(生栗)の仕入量 (H22:2.5t) 【目標(H27)】 製造 8t 仕入 12t
・道の駅食堂メニューとして新たに開発した「四万十牛まぜそば」 <u>が採用された</u>	・新規雇用(正規1名、パート2名)	【指標】 新商品売上高 【目標(H27)】 6,000千円
・道の駅登録(11/5)		【指標】 商品数 (H22:6商品) 雇用者数 (H22:パート2人) 【目標(H27)】 14商品 正規2名+ α
・取引業者数 166 社(11月末)	・雇用状況(11月末) 常勤 2名、パート 3名	【指標】 商品売上高 (H25:23,000千円) 【目標(H27)】 30,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>33 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)</p> <p>《大月町》</p> <p>ふれあいパーク大月を拠点に、特色ある地域資源を活用した拠点ビジネスモデルの構築に向けた事業展開を図る。</p> <p>【(一財)大月町ふるさと振興公社】</p>	<p>○H21、22と産業振興総合補助金を活用し、生鮮食品の鮮度保持用施設の改修、インターネット通販、カタログ販売の仕組みづくりなどにより、販促活動を充実・強化。大手百貨店や生協など県外での販売も拡大。所得向上及び道の駅のにぎわいづくりにつながっている。</p> <p>○販路拡大・販売促進(H21~24)の結果、ひがしやま関連商品、プリのへらずし、塩麹漬など、売れ筋商品が出てきている。</p> <p>○目標に対する実績 (H23:1.77億円)(H24:1.81億円)(H25:1.82億円)(H26:1.83億円)</p> <p>○町委託の移住支援事業において、移住支援(H25:7組18名、H26:9組18名) (相談はH25:41件、H26:31件)</p> <p>◆売れ筋商品の生産体制の充実(地域での仕組みづくり、加工場の充実など)</p> <p>◆将来を見据えた、道の駅新戦略づくり</p> <p>◆道の駅のにぎわいづくり継続</p>	<p>・地域おこし協力隊(外商担当)の配置(1名)</p>
<p>34 苺を核とした6次産業化</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の新しい加工品として注目されている苺氷りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。</p> <p>【農業生産法人 苺氷り本舗株式会社】</p>	<p>○H22産振総合補助金を活用し、販促活動に取り組んだ結果、販売店舗数も120店舗超、雑誌やメディアでの露出機会も多くなるなど、地域を代表する企業となっている。</p> <p>○ご当地氷りの開発(シークワサー、みかん、ゆず、ポイセンベリー)(H22-24)</p> <p>○3種類のハーブティーの商品化(H23)</p> <p>○OEM商品、抹茶氷りの商品化(H24)</p> <p>○商品販売金額 H24 6,149万円(苺氷り4,722万円、その他商品 355万円、生鮮1,071万円)→H25 7,133万円(苺氷り 5,702万円、その他商品 671万円、生鮮 759万円)→H26 6,512万円(苺氷り 5,388万円、その他商品 400万円、生鮮 723万円)</p> <p>◆苺氷りの販路開拓</p> <p>◆生産施設の拡大</p> <p>◆事務所、冷凍施設等の移転</p>	<p>・販路開拓のための営業(営業先約30件)</p> <p>・イベント販売(11回)</p>
<p>35 月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり</p> <p>《大月町》</p> <p>地域資源のひとつである牧野富太郎の足跡を活かし、観光振興を図るとともに、牧野富太郎や植物に関連した商品開発に取り組み、モノづくりによる起業や地域活性化を目指す。</p> <p>【大月町アウトソーシング研究会、四万十かいどう推進協議会大月支部】</p>	<p>○商品開発(コースターやクッキー)や展示会参加等の販路拡大(H23)</p> <p>○各種観光イベントの実施(H23)</p> <p>○緊急雇用事業を活用した月光桜周辺整備やイベントの実施(H24)</p> <p>○H24~H26実績 観光客受入数:H24 707名→H25 253名→H26 844名 商品数:H24~H26 24アイテム 販売金額:H24 約139万円→H25 約129万円→H26 約89万円</p> <p>◆商品づくりの方向性の検討(通年売れる商品づくりと既存商品のブラッシュアップ)</p> <p>◆受け入れ側の人づくり、人集め</p> <p>◆地域イベントとしての定着</p> <p>◆資金の確保については全体にわたる課題</p>	<p>・花街道推進支援事業費補助金交付決定(840千円)</p> <p>・イベントの実施(3回)</p> <p>・花街道実施(10/17~11月中旬)</p>
<p>36 黒潮印の商品開発</p> <p>《黒潮町》</p> <p>天日塩、黒砂糖など、黒潮町の安全で質の高い基本調味料と地域資源とを組み合わせることによって、付加価値の高い農林水産加工商品を開発する。また遊休農地を活用したサトウキビ等の栽培、企業への安定供給や加工による商品化などを進め、地域の雇用の場の創出と所得の向上を図る。</p> <p>【黒潮町、株式会社黒潮町缶詰製作所】</p>	<p>○24年度に開始した町単事業の産業振興推進総合支援事業を継続実施、生産者への支援策を講じた。</p> <p>○H26.3月に設立した防災関連新産業創造事業を実施する第三セクター、(株)黒潮町缶詰製作所が機能継承という形で事業を引き継いでいる。</p> <p>◆黒潮印のブランド認証事業については、事業内容の見直しのため、開催を見合わせた。</p> <p>◆商品の見直しと防災関連新産業創造事業と連携した地域資源活用等の検討</p> <p>◆より効率的な生産体制と設備の充実</p> <p>◆食品加工に対する専門知識の習得</p> <p>◆運営組織の強化(人材育成)</p> <p>◆獲得利益率の高い販路の開拓</p>	<p>・黒糖商品の県内取引先のA社との継続販売が決定</p> <p>・町単事業の産業振興推進総合支援事業費補助金交付決定(2件)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
・ギフトカタログの作成(6月、12月)	・ネット・カタログ販売 夏期(H27.4～8月) 約800千円 ・ふれあいパーク大月売上額:129,492千円(H27.4～11月)	【指標】 ふれあいパーク大月売上額 (H19:1.38億円) (H22:1.69億円) 【目標(H27)】 2.5億円
・新規取引先件数 18件	・苺氷り販売額:6,131万円(H26.12月～H27.10月)	【指標】 苺氷り販売 (H22:4,409万円) その他商品販売 (H22:1.2万円) 【目標(H27)】 苺氷り 7,000万円 その他 760万円
・花街道来場者 約7,000人		【指標】 商品数 (H22:19アイテム) 販売目標 (H22:125万円) 観光客受入数 (H22:444人) 【目標(H27)】 31アイテム 400万円 1,000人
・新規取引先件数 1件	・売上(10月末):503,000円	【指標】 特産協売上 (H19 107万円) (H22 430万円) サトウキビ栽培面積 (H19 250a) (H22 270a) 体験者数 【目標(H27)】 売上 3,000万円 栽培面積 350a 体験者数 500人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>37 カツオ文化のまちづくり事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることによって、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。</p> <p>【黒潮町商工会、黒潮町、高知県漁協】</p>	<p>○カツオ新商品の開発およびPR強化(H21～)</p> <p>○マリンエコラベル認証取得(H23)</p> <p>○黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3～)</p> <p>○水揚奨励交付金制度創設(H24.4～)、新荷捌・鮮度維持システムの導入(H24.4～)</p> <p>○“ぐるなび”を活用した飲食店へのPRによる日戻りカツオの受注の増加</p> <p>○県産業振興総合補助金により商品開発・施設拡充に、水産関連事業により活餌支援・水揚増支援・PR強化等に取り組んだ結果、コンビニでのタタキ贈答セットの販売やグルメサイト掲載、黒潮一番館通年営業化等により、「カツオのまち土佐佐賀」の認知度が向上している。</p> <p>○交流人口:(H23)16,148人、(H24)18,061人、(H25)22,271人、(H26)20,375人(2月末現在)</p> <p>◆黒潮一番館のさらなる活用方法及び道の駅「なぶら土佐佐賀」との連携</p> <p>◆もどりカツオ祭の規模保持・継続開催(H25:楽しまんと!はた博関連イベントとして開催)</p> <p>◆「日戻りカツオ」の活用方法(観光との連携)</p>	<p>・黒潮一番館の休館日(火曜日)を活用した地域特産品の販売市(びりびり市)の継続開催(H25.4月～)</p> <p>・黒潮町活餌供給機能強化対策協議会による、初カツオ漁期に併せた佐賀漁港への活餌搬入・販売(H27.4～11月間の事業:6回実施)</p>
<p>38 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【黒潮町、株式会社なぶら土佐佐賀】</p>	<p>○運営主体となる組織((株)なぶら土佐佐賀)(H25.10月)</p> <p>○道の駅「なぶら土佐佐賀」オープン(H26.4月)</p> <p>◆「幡多の東の玄関口」の観光案内拠点としての機能強化</p> <p>◆黒潮一番館やピオスおおがた等、関係団体との連携・強化</p> <p>◆売上増につながる取り組みの検討</p>	<p>・一周年記念イベントの開催(4/12)</p> <p>・黒潮一番館との連携(惣菜メニューの納入)(毎日)</p> <p>・地域との連携(近隣地区の祭会場での相互の商品販売協力等)</p>
<p>39 水産物加工施設整備事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>これまで以上の衛生管理・品質管理が可能で、生産拡大が図れる水産物加工施設を整備することにより、さらなる販売拡大を目指す。それにより、地域内の漁業者の所得拡大を図る。あわせて、生産従事者の技術力向上、営業面での充実を行い、地域での雇用を拡大する。</p> <p>【(有)土佐佐賀産直出荷組合】</p>	<p>○地域産業資源活用事業計画(経済産業省)に認定(H24.6)</p> <p>○新商品の開発(H24.12～きびなごペースト販売等)</p> <p>○むらおこし特産品コンテスト(全国商工会連合会)にて、「審査員特別賞」を3年連続受賞(H24:きびなごフィレ、H25:きびなごペースト、H26:きびなご魚醤)</p> <p>○「調味料選手権2012～新定番調味料を探せ～」にて、きびなごフィレが「サラダ部門」入賞(H24)</p> <p>○取引業者数:(H23:40社、H24:60社、H25:70社、H26:75社)</p> <p>○雇用:(H23)正職員2名、非正規職員8名→(H24)正職員2名、非正規職員8名→(H25)正職員2名、非正規職員9名→(H26)正職員2名、非正規職員9名</p> <p>◆施設新設後の加工体制の確立、強化</p> <p>◆既存取引先との関係性の強化</p> <p>◆新商品の開発</p> <p>◆業務用商品の開発</p>	<p>・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新施設の完成(5月末)、6/1～稼働</p> <p>・県外フェア等PR販売・営業活動(11月末現在:6回)</p> <p>・生産体制(衛生管理面)について産振アドバイザー制度の活用(11月末現在:1回)</p> <p>・新商品開発についてアドバイザー(地域人づくり事業活用)による現場指導(11月末現在:1回)</p>
<p>40 防災関連新産業創造事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>農林水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」「地消」「外商」を図ることで、雇用機会の創出はもちろん、地域生産者の所得向上につなげていく。</p> <p>【黒潮町、株式会社黒潮町缶詰製作所】</p>	<p>○(株)黒潮町缶詰製作所(第三セクター)設立(H26.3月)</p> <p>○工場稼働(H26.4月～)</p> <p>○雇用者数:常勤5名、パート13名(H27.3月末)</p> <p>○新商品開発(5商品)</p> <p>・道の駅等、町内では3ヶ所、県内外では他に2ヶ所で販売開始。</p> <p>○小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業補助金交付決定(H26.12/1)</p> <p>→シーマー、充填機、ラベラー整備による作業の効率化</p> <p>○高知ビジネスチャレンジ基金事業優良賞受賞(支援金200万円)</p> <p>◆品質管理体制の構築</p> <p>◆業務用商品の開発</p> <p>◆販路開拓、営業力強化</p>	<p>・品質管理体制強化に向け4名の専門家からなるアドバイザーチームを編成しチーム会を開催</p> <p>・商品製造の基礎研修の開催:キッチンN(9月)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮一番館の入込客数(11月末現在): 10,306人(前年同期: 9,233人) ・びりびり市来場者(11月末現在): 25回・延べ496人(前年同期: 25回・延べ約238人) ・水揚げ実績(佐賀漁港カツオ一本づり)(11月末現在): 271.6t、141,684千円 ・活餌販売事業(H27.4~6月・11月) 販売金額: 31,549千円(延べ123隻: 5,168杯) ・もどりガツオ祭来場者: 12,000人(前年比2,000人増) 	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口(H27.11月末現在): 22,802人 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 交流人口 (H19:8,700人) (H22:12,000人) 【目標(H27)】 18,000人
<ul style="list-style-type: none"> ・レジ通過者数 132,955人(H27.11月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高: 118,136千円(H27.11月末現在) ・雇用者数 正規5人、パート13人 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 雇用者数 売上額 【目標(H27)】 雇用者数 正規 5名 パート 14名 売上額 160,000千円
<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発(11月末現在): 22種 うち、出荷(規格)決定12種 		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 新規雇用 売上高 (H25: 73,085千円) 【目標(H27)】 5名 115,000千円
<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄用、保存期間3年の缶詰4アイテムを開発 ・包装食品技術管理者資格: 3名取得(8月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上(10月末): 5,877,558円 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】売上高 【目標(H27)】 売上高 74,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果：○ 課題：◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>41 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>幡多地域におけるコーディネート組織として、質の高い体験プログラムづくりや人材育成、民泊など受入体制の充実強化、それらを活用した周遊ルートなど、商品造成、販売誘致促進を図り、幡多地域での滞在型・体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【(一社)幡多広域観光協議会】</p>	<p>○H22～法人化及び旅行業取得。従来の教育旅行に加え一般客もターゲットに、商品の掘り起こしや磨き上げ、目指すべきビジョン・戦略づくり、人材育成、誘客活動等、地域観光のコア組織となるべく取り組んできた。</p> <p>○H25に官民が一体となって地域博覧会「楽しんで！はた博」を開催。対前年比20万人増の146万人の入込客数</p> <p>○H26ははた博で構築したノウハウを活用し、更なる誘客促進の定着化に取り組んだ結果、一般旅行受入数の増加につながった。</p> <p>◆旅行商品造成等を通じた職員のスキルアップ</p> <p>◆一般旅行では、更なる入込客増加に向け、商品の造成・磨き上げ、情報発信が課題</p> <p>◆教育旅行では、他地域との競合により受入数が落ち込んでおり、地域特性を活かした商品造成や民泊のキャパ増加やインストラクターの養成が課題</p>	<p>・はた旅ガイドブック春夏号完成155施設に配布(80,000部)</p> <p>・KVCAセールスキャラバン参加(東京・大阪・名古屋・岡山・広島)</p> <p>・民泊研修の開催：藤沢アドバイザーによる民泊研修の実施 2回</p> <p>・土佐の観光創生塾(西部地域)参加事業者28団体(参加者31人)</p>
<p>42 竜串観光再発見事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域産業の連携と地域が協働することで、観光客に地域をまるごと知ってもらい、地域住民と交流する施設や小動物等とふれ合える施設等整備の在り方、NPO竜串観光振興会が中心となって行っているサンゴ保全や観光メニューづくりなどのソフト事業について、地域住民や観光関連団体、市が連携しながら検討し、竜串観光の振興を図る。</p> <p>【土佐清水市、土佐清水市観光協会、NPO竜串観光振興会、竜串地区、竜串自然再生協議会】</p>	<p>○地元NPO竜串観光振興会を中心に、新たな観光メニューづくりや竜串地域の施設再検証、清掃活動、サンゴ保全、イベント開催、地元小学校の学習活動支援等、様々な活動に取り組んでいる。(～H26)</p> <p>○ステップアップ事業を活用し、竜串の観光資源の認知度と関心度のギャップ調査を実施。調査結果を基に、産業振興総合補助金の活用(～H25)及び市単独事業により、情報発信、認知度向上を図っている。(H22～H26)</p> <p>○H25年度開催の「はた博」をきっかけに、体験プログラムを12品目造成。(H25)</p> <p>◆観光客の減少</p> <p>◆観光消費額の減少</p> <p>◆人材不足</p> <p>◆全体構想(将来ビジョン)の確立及び共有</p>	<p>・高知県立足摺海洋館基本構想検討委員会(第3回5/9、第4回6/24)</p> <p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業終了後の継続雇用1名</p> <p>・爪白園地の新たなキャンプ場に向けた取組(視察4回、打合せ5回)</p>
<p>43 土佐清水まるごと戦略観光展開事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、農業・漁業・商業等と連動した地域まるごと観光を推進するため、食・体・商を集約した海の交流拠点施設として「海の駅」を核に、観光ニーズに即応できるワンストップサービスを推進する。</p> <p>【(一社)土佐清水市観光協会、地域活動団体、土佐清水市】</p>	<p>○「海の駅あしずり」に土佐清水市観光協会事務局を配置。ジョン万次郎資料館もリニューアルオープンし、異業種が連携したイベント「海の元気まつり」の実施や、体験型観光の受入窓口となるなど、交流拠点として存在。その他、市内各地等での様々なイベントの開催、県内外への観光PR・誘致活動、個人観光客へのきめ細かな対応、体験型修学旅行の受入など、当市観光振興の中核として取り組んでいる。</p> <p>◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成</p> <p>◆誘致・プロモーション活動の推進</p> <p>◆観光客の減少</p> <p>◆観光消費額の減少</p> <p>◆人材不足</p>	<p>・GWイベント「ジョン万海の元気まつり」開催(5/3～5/5)</p> <p>・団体客誘客促進事業実施(H27.4～28.2月)：送客一人当たり1,000円助成</p> <p>・土佐清水市ふるさと旅行券事業：額面1万円を5千円で販売、発行総額(額面)15,000千円</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 教育旅行受入数 (H22:3,074人) 一般旅行受入数 (H22:59人) 【目標】 教育旅行 4,000人 一般旅行 30,000人
		【指標】 入込客数 (H22:12万人) 【目標(H27)】 12.5万人
<ul style="list-style-type: none"> ・「ジョン万海の元気まつり」来場者数:4,950人 ・団体客誘客促進事業実績 5,709人 ・土佐清水ふるさと旅行券換金額 12,141千円 		【指標】 宿泊者数・入込客数 (H22:86.9万人) 【目標(H27)】 82万人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>44 足摺・竜串を中心としたジオパークへの取り組みによる交流人口の拡大</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>足摺岬(ラバキビ花崗岩)、竜串・見残し(化石遺痕)、唐人駄場(巨石群)等、日本でも貴重な地域資源(地質等)の『日本ジオパーク』の認証に向けた取組を進め、地域保全及び教育並びに交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【土佐清水市、土佐清水市ジオパーク推進協議会】</p>	<p>○推進体制(組織)の構築へ向けた準備等。(H25)</p> <p>○土佐清水市産業振興課内にジオパーク推進係を設置。また、ジオパーク専門員を雇用。(H26) ※H27には観光商工課ジオパーク推進室へ格上げ。</p> <p>○土佐清水市ジオパーク推進協議会設立。(H26)</p> <p>◆ジオパーク構想策定</p> <p>◆連携・協力体制の構築(学術機関、研究機関、国立公園、民間組織等)</p> <p>◆周知活動(広報紙連載記事、Webサイト開設等)</p> <p>◆教育・普及活動(研修会、講演会、出前講座等)</p> <p>◆受入態勢の整備(ソフト:ジオガイド養成等)</p> <p>◆受入態勢の整備(ハード)</p>	<p>推進体制(組織)の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27.4.1市観光商工課内にジオパーク推進室設置〔室長1名・係長1名・担当2名体制〕 ・推進協議会開催:1回、部会:4回、役員会:2回 ・専門員の雇用:1名(任期付職員 H26年9月～最長5年間) ・地域おこし協力隊の雇用1名(任期付 H27年10月～最長3年間) ・視察・研修等の実施:9回 <p>日本ジオパークネットワーク(JGN)関連の会合への参加:8回</p> <p>受入態勢の整備(ソフト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会・出前講座等の開催:9回 <p>ロゴマーク選定委員会の開催(産振アドバイザーの導入(1回))</p>
<p>45 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。</p> <p>【四万十市観光振興連絡会議、奥四万十楽しまんとPT、41℃プロジェクト、四万十市】</p>	<p>○通過型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)対策として秋に特化した宿泊を促すイベントの開催にあたり、これまで実施できていなかった飲食店組合及び旅館組合との連携を図ることができ、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。</p> <p>○「四万十川周遊川バス」、「しまんと・あしずり号」運行による二次交通補強</p> <p>○サイクリングエイドステーションの設置により、自転車による観光客受入体制が整備できた。</p> <p>○あわせて、H26.3月に予土県境5市町による連携組織が発足しサイクルトレインの運行、サイクリングイベントの実行や、埼玉県熊谷市、岐阜県多治見市とのアツイまち連携など、広域的な取り組みが可能となった。</p> <p>◆イベントを主とした宿泊観光客増は一時的(例:土日祝限定)であり、また受入側の負担増となってしまう。継続的で負担増とならない観光商品(体験メニュー)の開発や受入システムづくり、人材育成が必要。</p> <p>◆市内を訪れた観光客を、市内に留め、滞在期間を延ばすためには、魅力ある宿泊地として認知されることも必要である。市内には温泉資源もあり、市内旅館等の宿泊施設が広く温泉を活用できる仕組み作りに取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十川周遊バスの運行 4/24～5/10の毎日運行 7/17～8/30の金土日祝日 8/7～8/16の毎日運行 ・しまんと・あしずり号運行 4～9月運行 ・予土線でのサイクルトレインの実施 予土線でのサイクルトレイン四万十号の運行(3/21～5/17の土日・祝) ・四万十川花紀行事業 桜まつり、藤まつり、花菖蒲まつり、紫陽花まつり ・予土県境地域連携協議会でのサイクリングイベントの実施 2リバービューライド 9/13
<p>46 竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町柏島竜ヶ浜に、その植生(県内で2箇所しかない湿地帯)を活かした、自然体験及び環境教育型の滞在交流拠点施設を整備して、交流人口の拡大と地域の経済の活性化を図る。</p> <p>【大月町】</p>	<p>○H22ステップアップ事業を活用し基本計画を作成、H23産業振興総合補助金を導入し、キャンプ場(管理棟・炊事棟・駐車場・テントサイト等)の整備及び体験メニューづくりを実施した。H24.4.28供用開始。</p> <p>H24利用者:4,533名以上</p> <p>H25利用者:4,864名以上</p> <p>H26利用者:4,334名以上</p> <p>◆管理運営を委託する観光協会の収益体制の確立</p> <p>◆施設へ海水浴客等を誘導する仕組みづくり</p> <p>◆県内外へのPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊(観光担当)1名配置 ・事務職員(竜ヶ浜担当)1名増員 ・ウミノフォトフェス開催 ・土佐の観光創生塾参加(6回)

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・推進体制(組織)の確立 ・ロゴマークの選定		【指標】 ジオパークガイド登録者数 【目標(H27)】 10人
・四万十川周遊バス 乗車人員 4～5月 188人、7～8月 281人 計 469人 ・しまんと・あしずり号運行 乗車人員 350人 ・2リバービューライド 申込者300人(上級230人、中級70人) 出走者273人(上級210人、中級63人)	・四万十川周遊バスの運行 中村地域と西土佐地域を結ぶ二次交通として、宣伝PR効果も功を奏し、利用客が急増している(H26:199人→H27:469人)。これに伴い、四万十川沿線の観光施設や宿泊施設等についてもバス利用客が流れており、相乗効果が出ている。	【指標】 入込客数 (H21:95.5万人) (H24:117万人) 【目標(H27)】 120万人
・ウミノフォトフェス参加者 約700人	・4～10月のキャンプ場利用者数(宿泊、デイキャンプ、シャワー利用者数):4,631名	【指標】 利用者数 【目標(H27)】 8,700人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>47 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町の豊かな自然環境を生かした体験型観光を推進することで、都市部との交流人口の拡大を図ると共に地域の活性化につなげていく。</p> <p>【NPO砂浜美術館、黒潮町】</p>	<p>○体験プログラムの開発・ブラッシュアップやモニターツアー実施、砂浜美術館Tシャツアート展の広がりやウヅラの生態調査など自然環境を活かした取り組み強化、カツオ文化のまちづくりや農林漁家民宿のスキルアップ、スポーツ合宿誘致や大会実施等、地域資源活用型の体験交流地域として、関連団体の連携・強化が実を結びつつある。</p> <p>○入込客数:603,916人(H24)→629,140人(H25)→909,514人(H26)※道の駅なぶら土佐佐賀含む</p> <p>◆インストラクターの養成とスキルアップ</p> <p>◆幡多観光キャンペーンにおける情報発信及びオフィシャルイベント等の企画運営</p> <p>◆高知県及び幡多広域観光協議会等が実施する観光誘致営業活動への参加</p> <p>◆幡多地域の東玄関口となる佐賀道の駅(H25建設)を活用した地域情報の一元発信</p> <p>◆町内の資源を活用した観光プログラムの開発・モニターツアーの実施</p> <p>◆スポーツ施設充実(人工芝導入)によるスポーツツーリズム振興に関する検証</p> <p>◆民泊受入れ家庭の登録者拡大</p> <p>◆ゴルフモニターツアーの継続(H26～)</p> <p>◆アディダスカップの開催、ラクロス大会開催継続(H26～)</p>	<p>・西南大規模公園内の人工芝整備にかかる協議 7回 同説明会 3回 人工芝視察 2回</p> <p>・サッカー合宿(徳島市立高等学校)</p> <p>・サッカー大会(ミズノグローイングアップリーグin黒潮・宿毛 ほか) 4回</p> <p>・スポーツ関連誘致活動 13回</p> <p>・ホエールウォッチング特別ツアーの催行 2日間</p>
<p>48 幡多広域におけるスポーツツーリズムの推進を核とした交流人口の拡大</p> <p>《幡多地域全般》</p> <p>スポーツと体験型観光等を融合させた観光商品の造成及び受入態勢の整備に取り組むことにより、幡多地域におけるスポーツを核とした交流人口を拡大し、地域の活性化を図る。</p> <p>【(一社)幡多広域観光協議会、高知県】</p>		<p>・6市町村等による意見交換会の開催</p> <p>・スポーツ合宿・大会誘致、PR活動等(計17日)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・合宿、大会への参加者数 延べ2,234人泊 ・ホエールウォッチング特別ツアー参加者 延べ29人		【指標】 入込客数 (H22:57.8万人) 【目標(H27)】 60万人
・合宿、大会への参加者数(10~12月) 470人 (参考:4~12月 2,673人) ・延べ宿泊者数(10~12月) 161人泊 (参考:4~12月 3,405人泊)		